

氏 名 久保 英也 (Hideya KUBO)

所 属 総合経営学部

職 種 教授

生 年 1953 年 7 月 19 日

[履 歴]

[学 歴]

1977 年 (昭和 52 年) 3 月 31 日 神戸大学 経済学部 卒業

[学 位]

2005 年 9 月 博士 (商学) 神戸大学大学院 経営学研究科)

[職 歴]

1977 年 4 月 日本生命保険相互会社に入社

1985 年 3 月 財団法人 日本経済研究センター派遣 研究員

1987 年 4 月 米国シンクタンク The Conference Board(New York 在) 研究員

1988 年 4 月 日本生命保険相互会社 財務企画室 課長

1993 年 12 月 日本生命保険相互会社 総合企画部 部次長

1998 年 3 月 ニッセイ基礎研究所 上席主任研究員 (チーフ・エコノミスト)

2001 年 3 月 社団法人 生命保険協会 調査部 部長

2003 年 4 月 神戸大学大学院 経営学研究科 助教授

2007 年 8 月 滋賀大学大学院 経済学部 教授

2009 年 4 月 滋賀大学リスク研究センター センター長

2014 年 4 月 滋賀大学 学長補佐

2019 年 4 月 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 特任教授

2020 年 4 月 ワールドマスターズゲームズ 2021 関西組織委員会
参与 (担当: Chief Strategy & Security Officer)

2024 年 4 月 青森大学東京キャンパス 総合経営学部 教授

[受 賞]

2007 年 1 月 財団法人 簡易保険文化財団 優秀論文賞 受賞

2009 年 3 月 滋賀大学 学長賞 受賞

2010 年 12 月 文部科学省 東アジア保険研究プロジェクト採択

2011 年 3 月 滋賀大学 学長賞 受賞

2022 年 11 月 日本リスク学会 学会賞 受賞

[資格]

1980 年 10 月 宅地建物取引主任

1983 年 3 月 社会保険労務士

2025 年 10 月 防災士

[所属学会]

日本リスク学会、日本保険学会、生命保険経営学会

[教育活動]

[担当科目]

総合経営学部：

専門演習（3 年）、専門演習（4 年）、中小企業経営論、ベンチャー経営論
イノベーション論Ⅰ、イノベーション論Ⅱ

[卒業研究指導]

2015 年度：学部 20 名、修士 10 名、博士 1 名

2016 年度：学部 18 名、修士 7 名、博士 1 名

2017 年度：学部 20 名、修士 8 名

2018 年度：学部 19 名、修士 10 名、博士 1 名

2019 年度：修士 2 名

2023 年度：学部 5 名

2024 年度：学部 5 名

2025 年度：学部 5 名

[ゼミ指導]

上記の学生について、学部（3 回生、4 回生）、修士（1 回生、2 回生）、博士（1 回生、2 回生、3 回生）を担当制で指導

[学生支援]

2015～2018 年度：毎年 8 社程度の企業訪問を実施。

2026 年度 6 月：障害者雇用に先進的な会社を訪問、ディスカッションを実施。

学生の地域参画について、避難所開所訓練の事前設営、運営に参加させている。

[FD]

2025 年 8 月 東京キャンパス FD 委員会で地域貢献、文理融合教育を提案、報告

〔教育指導に関する特記事項〕

2024 年 10 月、2025 年 10 月 全日本学生ゼミナール大会関東大会に出場し、他大学のゼミと研究力を競う

〔研究活動〕

〔研究テーマ〕

- 1) 「自然環境保護の財源を金融市場から調達するスキームの研究」(環境リスクファイナンス領域)
- 2) 「日本で最も激甚水災リスクが高い江戸川区の減災策の提案」(リスク評価、リスクガバナンス領域)
- 3) 「共助を核とした減災・防災策のあり方」(災害リスクガバナンス領域)
- 4) 「伝統的保険では対応できない新領域の保険研究」(保険論領域)

〔著書、論文、総説〕

I. 著書

- 1) 『生命保険ダイナミクス』(単著)(財経詳報社/2003 年 4 月)
- 2) 『生命保険業の新潮流と将来像』(単著)(千倉書房/2005 年 10 月)
- 3) 『新・保険学』(近見正彦ほかとの共著)(有斐閣/2006 年 12 月)
- 4) 『保険市場の独立性と資本市場との融合』(単著)千倉書房/2009 年 10 月)
- 5) 『中国の公的医療保険など保険制度にかかわる計量分析』(編集/劉波ほかとの共著/サンライズ出版/2014 年 3 月)
- 6) 『中国における医療保障改革』(編集/李蓮花ほかと共著/ミネルバ書房/2014 年 3 月)
- 7) 『保险的独立性及其与資本市場的融合—以日本为例』(単著)(王美中国語訳/科学出版社(中国)/2016 年 6 月)
- 8) 『Global Blue Economy: Analysis, Developments, and Challenges』(共著) 2022 年 11 月 Chapter5 「Risk Finance for Natural Disaster in Lakes and Coastal Seas Using Modeling Techniques」 Jinxin Zhou, Kentaro Kikuchi, Hideya Kubo, Takero Yoshida, Md. Nazrul Islam, and Daisuke Kitazawa, CRC Press, 530pages, pp. 129-146 530P Published November 28, 2022 DOI: 10.1201/9781003184287-5

II. 論文

- 1) 「量的緩和政策の副作用と新たな金融政策の視点」(『マクロ経済政策の課題と争点』東洋経済新報社/2000年4月)
- 2) 「第2章 新しい金融政策の枠組みを探る」(『政策危機と日本経済』日本評論社/2001年4月)。
- 3) 「高齢化社会を見据えた公的金融のあり方」(『生命保険協会調査報告書』生命保険協会 /2001年12月)
- 4) 「日本の企業年金制度の現状と課題」(『保険学会誌』第66巻:2003-12号/日本保険学会 /2003年12月)
- 5) 「見直しが必要なスウェーデン公的年金のALM」(『国民経済雑誌』第188巻第6号/神戸大学経済経営学会/2003年12月)
- 6) 「スウェーデンの年金改革」(『生命保険経営』第72巻第2号/生命保険経営学会 2004年3月)
- 7) 「生命保険会計の今後の方向」『生命保険論集』第147号/生命保険文化センター2004年6月)
- 8) 「失われた[女性と年金]の議論」『保険学雑誌』第586号/日本保険学会/2004年9月)
- 9) 「〈マクロ保障倍率〉による生命保険市場分析と販売チャネルの将来展望」(『保険学雑誌』第588号/10)日本保険学会/2005年3月)
- 10) 「生命保険会社の新たな健全性指標の提案」(『生命保険論集』第151号/生命保険文化センター/2005年6月)
- 11) 「Proposal for a New Solvency Index for Life Insurance Companies— Detection of Insolvent Companies at an Early Stage by means of Adjusted Basic Profit and Solvency DI」(『Kobe University Discussion paper』第40号/2005年9月)
- 12) 「収益力評価による生命保険会社の経営破綻リスクの早期把握」(『保険学雑誌』第593号/日本保険学会/2006年6月)
- 13) 「生命保険市場の国際的市場制約を利用した健全性リスクマネジメント」(『2006年度 第19回研究発表会講演論文集』第19巻/日本リスク研究学会/2006年11月)
- 14) 「確率的フロンティア生産関数による生命保険会社の生産性測定と新しい経営効率指標 の提案」(『保険学雑誌』第595号/日本保険学会/2006年12月)
- 15) 「生命保険市場の国際的市場制約とリスク管理」(『環太平洋圏経営研究』第8号/桃山学院大学/2006年12月)
- 16) 「保険料率自由化が日本の損害保険業の経営効率に与えた影響—確率的フロンティア生産関数による効率性の計測」(『損害保険研究』第68巻4号/損害保険事業

総合研究所/2007 年 2 月)

- 17) 「機関投資家のための信用リスク評価」『第 20 回研究発表会講演論文集第 20 巻』
/日本 リスク研究学会/2007 年 11 月)
- 18) 「キャッシュフロー予測モデルの利用可能性の検証」(『保険学雑誌』第 600 号記
念号/日本保険学会/2008 年 3 月)
- 19) 「再構築が求められる日本の生損保兼営グループの戦略」(『保険学雑誌』601 号/
日本保険学会/2008 年 6 月)
- 20) 「[融資価格]を算出する信用リスクスプレッド評価モデルの提案」(『彦根論叢』
第 374 号/2008 年 7 月)
- 21) 「景気循環を反映した長期キャッシュフロー予測モデルの提案 —マクロモデルを
利用 した機関投資家のための信用リスク評価」『日本リスク研究学会誌』2008 年 8
月 18 巻 1 号/日本リスク研究学会/2008 年 8 月)
- 22) 「Measurement of Effects and Productivity of Deregulation in insurance
industry in Japan」(『Korean Insurance Journal』 No.80/Korean Insurance
Academic Society/ 2008 年 8 月)
- 23) 「信用リスク構造型モデルの改善と示唆」(『第 21 回研究発表会講演論文集』第
21 巻/日本リスク研究学会 2/008 年 11 月)
- 24) 「日本における環境保険の普及に向けた提案」(『生命保険論集』No. 167/生命保険
文化センター/2009 年 6 月)
- 25) 「生命保険買取契約の価格構造と契約者還元の可能性」(『保険学雑誌』606 号/日
本保険学会/2009 年 9 月)
- 26) 「死亡リスクと信用リスクとの交換モデルの提案」(『日本リスク研究学会誌』19
巻 4 号 /日本リスク研究学会/2009 年 12 月)
- 27) 「破綻可能性の高い生命保険会社を事前に知らせるソルベンシー・ディフュージ
ョン・ インデックスの提案」『第 23 回年次大会講演論文集』第 23 巻/日本リスク
研究学会/2010 年 11 月)
- 28) 「日本の保険会社における経営統合効果の計測」(『保険学雑誌』612 号/日本保険
学会 /2011 年 3 月)
- 29) 「デフレが生命保険業に与える影響」(『生命保険経営』79 巻 3 号/生命保険経営
学会/2011 年 5 月)
- 30) 「中国における医療格差の多面的考察」『生命保険論集』第 176 号/生命保険文化セ
ンター /2011 年 9 月)
- 31) 「死亡率統計のスモーキングにおける数学的手法の提案」(『保険学雑誌』614 号/
日本保険学会/ 2011 年 9 月)
- 32) 「中国新型農村合作医療保険制度の現状と DEA モデルを使用した制度運営効率の
測定」(『保険学雑誌』614 号/日本保険学会/2011 年 10 月)

- 33) 「On long-term credit risk assessment model and rating: Towards a new set of models」 (first author) 『Journal of Risk Research』 / Society for Risk Analysis-Europe/2011.11)
- 34) 「確率的フロンティア生産関数を用いた中国生命保険会社の効率性評価」(『生命保険論集』 No. 177/生命保険文化センター/2011 年 12 月)
- 35) 「DEA を用いた日本市場における国内生保、外資系生保の効率性比較」(『彦根論叢』 390 号/2011 年 12 月)
- 36) 「日中および相互・株式会社韓の効率性比較からみた相互会社の国際化の評価」(『保険学雑誌』 616 号/日本保険学会/2012 年 4 月)
- 37) 「もう一つの低頻度大規模災害への対応・・・金融機能の活用」『日本リスク研究学会誌』 22 巻 2 号/日本リスク研究学会/2012 年 9 月)
- 38) 「滋賀 DI(Shiga Diffusion Indexes)、CI(Shiga Composite Indexes を軸とした新しい滋賀県景気指標の提案) (『彦根論叢』 2012 冬 394 号/2013 年 1 月)
- 39) 「貿易構造からみた日中韓 FTA の実現可能性」(『彦根論叢』 395 号 2013 春/2013 年 3 月)
- 40) 「Overview cesium contamination of freshwater fish by the Fukushima Nuclear Power Plant Accidents」 (first author) 『 Scientific Reports』 /Vol.1742 NO.3/2013/04/Altmetric point が歴代最高点を獲得)
- 41) 「日本の経験を生かした中国地震保険創設に向けての提案」 (second author) (『保険学 雑誌』 621 号/日本保険学会/2013 年 6 月)
- 42) 「中国の充実した保険教育と学生の早期就職決定が日本の保険教育に与える示唆」(『保険学雑誌』 623 号/日本保険学会/2013/12)
- 43) 「韓日地域反映に向けた関西広域連合と滋賀大学の「グローバル」戦略【韓国語】」 (2nd International Seminar on promoting Economic Development and Cooperation in the Far East Asian Rim, Keimung University/2014 年 3 月)
- 44) 「金利変化がソルベンシーⅡとソルベンシー・マージン基準に与える影響」(second author) (『保険学雑誌』 645 号/日本保険学会/2014/06)
- 45) 「生保の株式会社化が株式市場に与えた影響」(『生命保険経営』 82 巻 6 号/生命保険経営学会/2014/11)
- 46) 「Improvement of Life Insurance Policyholders' Protection Corporation with Emphasis on Consistency with Vietnamese Market」 『 Journal of Economics and Development』 Vol. 17 No. 2/ 2015/9)
- 47) 「現代ポートフォリオ理論を用いた生保の最適資産ポートフォリオの提案」(first author) 『保険学雑誌』 631 号/日本保険学会/2015/12)
- 48) 「琵琶湖における全循環の数値シミュレーションと気候変動の関係」 (second author) 『生産研究』 2018 年 1 月号/東京大学生産技術研究所/2018 年 1 月)

- 49)「今、学会の存続をかけた若手研究者の育成-シンポジウムにおける問題提起と今後の方向性」『保険学雑誌』 640 号/日本保険学会/2018/3)
- 50)「国民年金未納についての計量分析」(second author) (『保険学雑誌』 第 641 号 /日本 保険学会/2018 年 06 月) /2018 年 6 月
- 51)「自然環境保護に資する環境リスクファイナンスの提案 —琵琶湖と池田湖の比較研究 から—」(共著)『損害保険研究』第 81 巻第 4 号/損害保険事業総合研究所/ 2020 年 2 月
- 52)「琵琶湖の全循環停止リスクに対する環境リスクファイナンスの提案」(共著)『保険学雑誌』 第 653 号/2021 年 6 月
- 53)「コロナ感染症に対峙する 3 つの新指標の提案—実質新規陽性者、ARMA モデルによる短期予測、地理的時間ラグを用いた長期予測—」『リスク学研究』 第 31 巻, 1 号/日本リスク学会/2021 年 9 月
- 54)「ベトナム貧困農村部への相互型マイクロインシュランスの提供」『リスク学研究』 第 31 巻 3 号/2022 年 6 月、pp. 1~11
- 55)「大都市激甚水害に直面する江戸川区民から SRA-J への SOS」『日本リスク学会大会論文集』 /2025 年 11 月

Ⅲ. 辞書、報告書など

- 1)米主要 5 カ国の社会保障制度と私的保障制度の役割」(『生命保険協会 調査報告書』 2002 年 3 月、生命保険協会/)
- 2)金融分野における消費者保護の国際比較」(『生命保険協会 調査報告書』 生命保険協会 /2002 年 6 月)
- 3)『リスク学事典』 編集委員長/丸善出版 (日本リスク研究学会/2018 年 11 月)

Ⅳ. 小論文、その他

- 1)2000 年の生命保険業を展望する」(『産業の現状と将来の展望』 えぬ編集室/1985 年 12 月)。
- 2)「日米の産業構造の変化と為替レート—予断許さぬ貿易不均衡と為替安定」(『日本経済研究センター会報』 2 月 15 日号/日本経済研究センター/1990 年 2 月)
- 3)「機関投資家・ジャパンマネー」(『日米経済問題 100 のキーワード』 有斐閣/1992 年 3 月)
- 4)「主要産業中期展望：2000 年の生命保険産業」(『景気観測』 1995 年 2 月 20 日号/国民経済研究協会/1995 年 2 月)
- 5)「景気月評：STP 法分析では景気は 99 年 4 月に底入れか」(『週刊ダイヤモンド』

- 1998 年 9 月 5 日号、ダイヤモンド社/1998 年 9 月)
- 6) 「日本経済はどうなる－新しいスタートへ」(『Insurance』1999 年 1 月 1 日号/保険研究所/1999 年 1 月)
 - 7) 「三つの国家ビジョンで日本再生を図れ」(『週刊東洋経済』1999.2.13 号/東洋経済新報社/1999 年 2 月)
 - 8) 「政策の基本軸を見直す」(『インテレクチュアル・キャビネット』No. 4/東京財団/1999 年 3 月)
 - 9) 「景気実感に近い GDP ベースの月次経済指標〈ニッセイフラッシュ〉を開発」(『金融財政事情』1999 年 5 月 24 日号/きんざい/1999 年 5 月)
 - 10) 「当たらぬ、遅い、実感とは違う経済予測の抜本的処方箋」(『週刊ダイヤモンド』1999)7 月 3 日号/ダイヤモンド社/1999 年 7 月)
 - 11) 重要性増す経済指標の読み方－有効な供給サイドからのアプローチ」(『レーティング情報』1999 年 8 月号/R&I 社(格付機関)/1999 年 8 月)
 - 12) 「金融政策は限界か」(『ニッセイ基礎研レポート』1999 年 9 月号/ニッセイ基礎研究所/1999 年 9 月)
 - 13) 「健全性の高い日銀のバランスシート」(『週刊東洋経済』1999 年 9 月 4 日号/東洋経済新報社/1999 年 9 月)
 - 14) 「金融政策を軸としたポリシーミックスが不況に終止符」(『信用組合』1999 年 10 月号/全国信用組合中央協会/1999 年 10 月)
 - 15) 「金融の量的緩和の是非を問う」(『日本経済研究センター会報』11 月 15 日号/日本経済研究センター/1999 年 11 月)
 - 16) 「50 年のロングレースのスタートは厳しいが、明るい」(『Insurance』新年号/保険研究所/2000 年 1 月)
 - 17) 「構造改革モラトリアムの罪」(『金融ビジネス』2000 年 3 月号/東洋経済新報社/2000 年 3 月)
 - 18) 「1 年かけ収束する家計と企業の乖離」(『財経詳報』No. 2228/財経詳報社/2000 年 4 月)
 - 19) 「政策危機の時代だからこそ変わる日本」(『財経詳報』No. 2253/財経詳報社/2000 年 5 月)。
 - 20) 「今後の金融政策と日銀－財政を含め効果を模索」(『経済教室』日本経済新聞 6/13/日本経済新聞社/2000 年 6 月)
 - 21) 「経済学・経営学学習のために－人生の実学としてのリスクマネジメント」(『国民経済雑誌・別冊』平成 16 年後期号/神戸大学経済・経営学会/2004 年 9 月)
 - 22) 「リスクマネジメント分野の用語」(『マーケティングコミュニケーション大辞典』/宣伝会議/2006 年 4 月)
 - 23) 「保険専門用語及び生命保険会計用語」(『第六版会計学辞典』/同文館出版/2007

年 3 月)

- 24) 「International Constrains on the Life Insurance Markets and Risk Management for Life Insurance Companies」(『Creativity and Innovation: Imperatives for Global Business and Development』/2007 年 8 月)
- 25) 「The analysis of the efficiency over a long period in Japanese nonlife insurance industry」(『Japan' s Insurance Market 2009』No.2009.8/The Toa Reinsurance Company Limited/2009 年 8 月)
- 26) 連載「Economic Outlook」, 「Line Up 景気」(『週刊東洋経済』1998 年 11 月～
- 27) 連載「景気フラッシュ」(『週刊ダイヤモンド』1998 年 11 月～2001 年 4 月: 全 95 本/ダイヤモンド社)
- 28) 連載「(週刊) エコノミストレーター」(編集委員長兼発行責任者/1998 年 9 月～2000 年 4 月: 全 120 本) /ニッセイ基礎研究所/執筆は 6 名による交代制)
- 29) 「リスク研究の相互理解の嘘とホント」(『日本リスク研究学会誌』第 21 巻 4 号/日本リスク研究学会/2012 年 3 月)
- 30) 「標準利率改定ルールの見直しが教える本質」(『金融ジャーナル』689 号/金融ジャーナル社/2014 年 1 月)
- 31) 「韓日地域反映に向けた関西広域連合と滋賀大学の「グローバル」戦略」(『2nd International Seminar on promoting Economic Development and Cooperation in the Far East Asian Rim』/2014.4)
- 32) 書評「大塚忠義著: 生命保険業の健全性戦略ー財務指標とリスク測定手法による早期警戒機能」(『保険学雑誌』628 号/日本保険学会/2015 年 3 月)

[学会発表]

- 2025 年 11 月 日本リスク学会年次大会で企画セッションを主催
「大都激甚水災へ江戸川区から学会への SOS」(参加者: 40 名 於: 大阪大学) 報告とオーガナイザー

[委託研究・受託研究・外部研究費の確保]

- 科研費 3 回 (総額 500 万円)
- 文部科学省特別研究支援 5, 000 万円

[その他の研究業績]

[その他の活動]

- (1) 2025 年 3 月 えどがわ防災フェア (避難所運営パネルと装備品を出展: 参加 60 名: 葛西防災公園)

- (2) 2025 年 3 月 清新・臨海地区避難所開所訓練（13 自治会＋7 避難所運営学校：115 名の参加：当学）
- (3) 2025 年 5 月「ふれあい祭り」で清新・臨海地区 5 校長減災会議を開催
- (4) 2025 年 5 月 減災セミナーを開催（区民セミナー：40 名の参加：当学）
- (5) 2025 年 6 月 江戸川区に避難所受付システムとコミュニティ水災保険を提案
- (6) 2025 年 6 月 江戸川区長と区の幹部職員 100 名に避難所開所訓練の記録映像視聴(100 名参加、江戸川区役所)
- (7) 2025 年 8 月 青森山田高等学校 広域通信制課程 東京校減災セミナー[逃げるが勝ち]150 名参加]
- (8) 2025 年 9 月 葛西南部地区大運動会に参加（PTA 会長との減災打ち合わせ：江戸川陸上競技場）
- (9) 2025 年 10 月「臨海小学校ドリームフェスタにネットゲームブースを出展（参加者 50 名：江戸川区立臨海小学校、）
- (10) 2025 年 10 月 大学祭「防災士育成ブースを出展、また、防災士育成セミナーを実施（参加者 35 名、当学）
- (11) 2025 年 11 月 コーシャハイム清新自治会とURとの共同イベントにおいて、減災セミナーを実施（参加 50 名：同自治会集会場）
- (12) 2025 年 11 月 「東信用金庫ビジネスフェア」にブース出展（避難所運営システムやコミュニティ水災保険の展示など（参加 70 名：国技館）
- (13) 2025 年 12 月 紅葉側高校との高大連携授業
- (14) 2026 年 2 月 清新・臨海地区避難所運営訓練（参加 120 名、当校）

[公開講座、講演、セミナー]

- 2025 年 2 月 清新臨海地区教育協議会で講演
- 2025 年 3 月 避難所開所訓練でセミナー
- 2025 年 5 月 ふれあい祭り 5 校長会議で講演
- 2025 年 11 月東京都住宅公社・コーシャハイム清新イベントで講演
- 2026 年 2 月 避難所開所訓練でセミナー
- 2026 年 3 月 弘前大学「あおもり積雪期避難所演習」でセミナー

[学外委員]

日本リスク学会国際委員会委員

SRA-Europe『Risk Research』Editorial Board（日本代表編集委員）

[学内各種委員]

全学キャリア支援部会（2024 年度～2026 年度）

全学学生委員会（2026 年度）

以 上